

消費者科学専攻 研究指導内容及び指定受験科目一覧

指導教員

上野 顕子

UENO Akiko

指定受験科目

生活経営学・
生活経済学

研究指導内容 家庭科教育学、家族関係学

家族また家族員としての個人に関する諸相を捉え、家族をめぐる生活課題やその背景にある社会構造を探究する。また、それらを学校教育の中で扱っていく家庭科教育のあり方について研究する。

■研究経歴／The University of Alberta, The Faculty of Graduate Studies and Research, Department of Secondary Education 修了。Doctor of Philosophy in Secondary Education。

■所属学会／日本家政学会、日本家政学会家族関係学部、日本家庭科教育学会、日本家族社会学会、国際家政学会。

■研究業績／(著書)『平成29年改訂中学校教育課程実践講座 技術・家庭』(共著)、株式会社ぎょうせい、2017。
(著書)『新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して』(中学校技術・家庭家庭分野検定教科書) (共著)、東京書籍、2021。

(論文)『Instructional Activities of Multicultural Education in Canadian Home Economics: A case of Secondary School Education』(共著)、『家庭科教育学会誌』61(2)、2018。

(論文)『知的障害のある生徒に対するネットショッピング指導の現状と教材開発に向けた課題の把握—A県における特別支援学校高等部家庭科担当教員のフォーカスグループインタビューより—』(共著)、『消費者教育』40、2020。

指導教員

小田 奈緒美

ODA Naomi

指定受験科目

生活経営学・
生活経済学

研究指導内容 生活経済学、消費者教育

人間の発達段階に応じ、ライフサイクルのそれぞれのステージで、生涯にわたって生活課題を解決する方法を探究する。また、それらを個人・家庭生活を中心とした、すべての人が自己実現するための能力の開発について研究する。

■研究経歴／椋山女学園大学大学院生活科学専攻博士後期課程単位取得満期退学、博士(人間生活科学)。

■所属学会／日本消費者教育学会、日本家政学会、日本家政学会生活経営学部、日本家庭科教育学会、国際家政学会。

■研究業績／(論文)『「こどものまち」におけるSDGsのアプローチ:ドイツのFEZittyを事例として』(共著)、『消費者教育』2020。

(論文)『キッズタウンにおける消費者市民の育成に関する実践的研究』(共著)、『消費者教育』2019。

(著書)『「こどものまち」の足跡』(単著)、『「こどものまち」の足跡編集委員会』2018。

(著書)『生活の経営と経済』(共著)、『家政教育者』2012。

指導教員

古寺 浩

KODERA Hiroshi

指定受験科目

生活経営学・
生活経済学

研究指導内容 生活経済学、生活・家政学原論

個人・家族が自らの自己実現を図るべく、経済環境の中で生涯を通してより豊かに生活を営んでいく上で必要となる諸条件について研究する。特に今日注目されつつあるパーソナル・ファイナンスに関する諸理論について、その手法と有効性の検証も行う。

■研究経歴／大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程中退、教育学修士。

■所属学会／日本家政学会、日本消費者教育学会、国際家政学会(IFHE)、アメリカ家政学会(AAFCS)。

■研究業績／(論文)『アメリカ家政学会による大学教育プログラム基準認定の歴史(第3報)』、『金城学院大学論集 社会科学編』第3巻第2号、2007。

(著書)『生活の経営と経済』、家政教育者、2008。

(学術報告)『家庭科教育の実態から教員養成カリキュラムを問う—アメリカの実態調査を踏まえて—』、日本家庭科教育学会 第51回大会資料、2008。

(論文)『フライングディスクを用いたレクリエーションの心理的効果—「なごや健康カレッジ」の参加者を対象として—』、『金城学院大学論集 自然科学編』第7巻第1号、2010。

(学術報告)『家政教育に関する日米比較研究—高等・中等教育機関における実態調査—』、アメリカ家政学研究会、2011。

(論文)『Japan-U.S. Comparison of Current State of and Issues in Family & Consumer Sciences』、Bulletin of Faculty of Education and Care of Early Childhood, Tokoha University No.2、2015。

指導教員

宮坂 靖子

MIYASAKA Yasuko

指定受験科目

生活経営学・
生活経済学

研究指導内容 家族社会学、ジェンダー研究

家族、及びジェンダーに関する社会的現象に、比較社会学・歴史社会学の方法を用いてアプローチする。近年は、近代家族から脱近代家族への変動を家族のケア役割と情緒規範に焦点を当てて解明することを試みている。

■研究経歴／お茶の水女子大学大学院人間文化研究科人間発達学専攻博士後期課程単位取得退学、博士(社会科学)。

■所属学会／日本家族社会学会、日本社会学会、家族問題研究学会、比較家族史学会、日本家政学会、日本家政学会家族関係学部、国際家政学会。

■研究業績／(著書)『避妊言説と家族の親密性』(単著)、書肆クラルテ、2020。『アジアの家族とジェンダー』(共著)、勁草書房、2007。

(論文)『家族の情緒化と「専業主婦」規範—専業主婦の日中比較—』、『社会学評論』256、2014。

『家族の近代化・脱近代化と子育て—ケアネットワークと情緒規範からのアプローチ』、『家族関係学』37、2018。

消費者科学専攻 研究指導内容及び指定受験科目一覧

指導教員

石田 淳子

ISHIDA Junko

指定受験科目

健康栄養科学

研究指導内容 病態栄養学

臨床栄養では病態に見合う適切な栄養管理を行う必要がある。疾病の栄養療法を学ぶとともに、サルコペニア・フレイル等、栄養介入が必要な症状に関する検討を行う。

- 研究経歴／静岡県立大学大学院博士前期課程修了。病態栄養専門管理栄養士(日本病態栄養学会認定)。
- 所属学会／日本透析医学会、日本病態栄養学会、日本栄養改善学会。
- 研究業績／(論文)「日本人の食事によるリン摂取量-透析患者も含めて- 日本透析医会雑誌vol.30(3):512-518,2016。
(論文)骨関節障害・CKD-MBDの概念を再考する-食餌中のリンとその吸収- 臨床透析vol.31(6):7-14,2016。

指導教員

岸 和廣

KISHI Kazuhiro

指定受験科目

健康栄養科学

研究指導内容 臨床栄養学

各種の疾患に対して高度な栄養療法が行われるようになった。疾患によっては、栄養療法の選択やその継続が患者の回復に大きな影響を及ぼす。管理栄養士の視点から、実際に行われている臨床栄養管理に触れ、それらの理論を深く理解し、症例検討を重ねていく。自身の臨床体験を活かし、医療機関の第一線で即時に活躍できる優秀な人材を育てたい。

- 研究経歴／静岡県立大学大学院博士後期課程修了。博士(食品栄養科学)。臨床栄養師研修修了(日本健康・栄養システム学会認定)。
- 所属学会／日本消化吸収学会、日本臓器学会、日本臨床栄養代謝学会、日本健康・栄養システム学会。
- 研究業績／(著書)重症患者と栄養管理Q&A(共著)総合医学社,2010。
(著書)徹底ガイド 胃ろう(PEG)管理Q&A(共著)総合医学社,2011。
(論文)ナトリウム管理における栄養療法のポイント 静脈経腸栄養24(3), 793-796, 2009。

指導教員

北森 一哉

KITAMORI Kazuya

指定受験科目

健康栄養科学

研究指導内容 予防栄養学

生活習慣病の予防・改善に着目している。生活習慣病は増加しており、その対策は望まれているが遅々としている。非アルコール性脂肪性肝疾患の病態メカニズムの解明・栄養素による予防改善効果の検討を行う。

- 研究経歴／神戸学院大学大学院修士課程修了。名古屋大学研究生 博士(医学)。
- 所属学会／高血圧関連疾患モデル学会、日本栄養改善学会、日本栄養食糧学会。
- 研究業績／(論文)High-fat and high-cholesterol diet decreases phosphorylated inositol-requiring kinase-1 and inhibits autophagy process in rat liver. Sci Rep. 2019 Aug 29;9(1):12514。
(論文)The antihypertensive agent hydralazine reduced extracellular matrix synthesis and liver fibrosis in nonalcoholic steatohepatitis exacerbated by hypertension. PLoS One. 2020 Dec 14;15(12):e0243846。

指導教員

清水 彩子

SHIMIZU Ayako

指定受験科目

健康栄養科学

研究指導内容 調理学

疾病の予防、健康保持・増進のためには、毎日の食事をおいしくいただくことが不可欠である。おいしい食事を提供するための調理工程や、調理による食品の成分・外観・食感の変化、その評価方法を検討する。

- 研究経歴／京都府立大学大学院修士課程修了。
- 所属学会／日本調理科学会、日本栄養改善学会、日本食育学会。
- 研究業績／(論文)加熱調理における火の学びICT教材の学習効果-VR教材と動画教材の比較- 日本家庭科教育学会誌64(4), 288-299,2022。
(論文)バーチャルリアリティを用いた火の学び教材が私立女子高校生の調理実習時の行動と学習到達度に及ぼす影響 日本家政学会誌72(3),140-151,2021。

指導教員

藪田 邦博

SONODA Kunihiro

指定受験科目

健康栄養科学

研究指導内容 食品学、食品機能学

我々は毎日の食事から種々の食品を摂取していることから、食品成分の生体に対する影響を明らかにすることは栄養学的に重要である。新たな食事療法の開発に貢献するため食品成分の疾患(循環器疾患、肝疾患、糖尿病など)に対する有効性から、その作用メカニズムまで検証する。

- 研究経歴／城西大学大学院薬学研究所医療栄養学専攻修了、博士(薬科学)。
- 所属学会／日本栄養改善学会、日本薬学会、日本NO学会。
- 研究業績／(論文)Dietary nitrite supplementation attenuates cardiac remodeling in l-NAME-induced hypertensive rats. Nitric Oxide. 1:67:1-9. 2017(共著)。
(論文)Dietary nitrite reverses features of postmenopausal metabolic syndrome induced by high-fat diet and ovariectomy in mice. Am J Physiol Endocrinol Metab. 1:312(4):E300-E308. 2017(共著)。

指導教員

内藤 久雄

NAITO Hisao

指定受験科目

健康栄養科学

研究指導内容 衛生学

近年増加傾向の生活習慣病の1つ、肝疾患である非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)の病態メカニズムを解明するために、NASHモデル動物(ラット)を用い、分子生物学を中心とする実験医学研究に関する知識・技術を幅広く学習する。

- 研究経歴／名古屋大学大学院医学系研究科修了。医師、博士(医学)。
- 所属学会／日本衛生学会、日本産業衛生学会、日本疫学会、高血圧関連疾患モデル学会。
- 研究業績／(論文)High-fat and high-cholesterol diet decreases phosphorylated inositol-requiring kinase-1 and inhibits autophagy process in rat liver. Sci Rep. 9:12514. 2019(共著)。
(論文)The antihypertensive agent hydralazine reduced extracellular matrix synthesis and liver fibrosis in nonalcoholic steatohepatitis exacerbated by hypertension. PLoS One. 15:e0243846. 2020(共著)。
(資料)許容濃度等の勧告(2020年度)日本産業衛生学会 62:198-230. 2020(共著)。

指導教員

丸山 智美

MARUYAMA Satomi

指定受験科目

健康栄養科学

研究指導内容 加齢栄養学

ヒトのライフステージに焦点をあて、成長や発育・妊娠や分娩・加齢などによる影響を栄養学見地から検討する。とくに、実践栄養学においての科学的根拠の構築を行うために環境や社会的・文化的影響を分析し考究する。

- 研究経歴／昭和女子大学大学院生活機構研究科修了。博士(学術)。
- 所属学会／日本栄養改善学会、日本公衆衛生学会、日本臨床栄養学会、日本思春期学会、日本女性医学学会。
- 研究業績／(論文)The Operation System of School Lunches in Japan: System Construction Considering. The Japanese Journal of Nutrition and Dietetics. 2018
(論文)Effects of health education using lunch and diet education media in employee canteen for Japanese workers. Annals of Nutrition & Metabolism 75 / suppl.3. 404. 2019

指導教員

網岡 克雄

AMIOKA Katsuo

指定受験科目

生活薬科学

研究指導内容 医療薬学、社会薬学

インフォームドコンセントやカルテ開示など、医療における情報公開・提供が推進され、患者は自らの疾患や治療に関して知る機会が増加している。このような状況の中で、医療情報提供に基づく患者自身の治療への積極的な参加により医療を提供する側と患者が協力して病気と向き合うことが重要になってきている。代表的な疾患の症例をもとに、その疾患についての理解や治療法や療養上の注意点などを調査検討し理解を深め、患者へのより良い情報提供や治療について調査検討する。

■研究経歴／名城大学薬学部薬学科卒業 医学博士。

■所属学会／日本薬学会、医療薬学会、日本薬剤疫学会、日本アブライドセラピューティクス学会、DPCマネジメント研究会。

■研究業績／(論文)糖尿病患者におけるミリオペン®の使用性の調査 医療薬学, 36, 689-695, 2010。

(論文)Lack of Correlation Between UGT1A 1 *6, * 28 Genotypes, and Plasma Raltegravir Concentrations in Japanese HIV Type 1-Infected Patients

指導教員

吉川 昌江

YOSHIKAWA Masae

指定受験科目

生活薬科学

研究指導内容 臨床薬学

医薬品を安全に使用し有用性を最大限に引き出すには、医薬品適正使用のための良質のエビデンスを構築し、科学的根拠に基づいて薬物療法を実践する必要がある。また、患者個々の病態・生活に合わせたオーダーメイド医療の実践も求められている。患者や医療従事者を対象とした調査など、臨床中心に研究を進めており、特に糖尿病における療養生活・治療法を調査検討し、患者教育方法及び治療についての検討を行う。

■研究経歴／名古屋市立大学薬学部薬学科修了。名古屋市立大学大学院医学研究科研究員。博士(医学)。

■所属学会／日本薬学会、日本糖尿病学会、日本動脈硬化学会、日本くすりと糖尿病学会、日本医療薬学会、日本薬学教育学会。

■研究業績／(論文)Chronopharmacology of dapagliflozin-induced antihyperglycemic effects in C57BL/6Jmice: Obesity Research & Clinical Practice 13(2019)505-510(共著)。

(論文)HDL3 Exerts More Powerful Anti-Oxidative, Protective Effects Against Copper-Catalyzed LDL Oxidation Than HDL2 Clin Biochem 30 (3), 221-225. 4 1997。

消費者科学専攻 研究指導内容及び指定受験科目一覧

指導教員

長嶋 直子

NAGASHIMA Naoko

指定受験科目

被服環境学

研究指導内容 繊維加工学、洗浄科学

地球温暖化の影響とその課題解決に向け、持続可能な衣生活の提案と実践が強く求められている。環境への負荷が少ないエコフレンドリーな繊維染色加工をテーマに、生分解性繊維、再生繊維と天然由来物質の有効活用を研究する。

■研究経歴/信州大学大学院総合工学系研究科生命機能・ファイバー工学専攻 博士課程修了。博士(工学)。

■所属学会/繊維学会、日本繊維製品消費科学会、日本家政学会、日本衣服学会。

■研究業績/(著書)「衣服材料学」朝倉書店(2020)(共著)。

(著書)「Structure and Physical Properties of Wool」Sen-i sha Co.,Ltd (2016)(共著)。

(著書)「羊毛の構造と物性」繊維社企画出版(2015)(共著)。

(論文)「ラッカーゼによる色素の漂白作用」繊維学会誌(2013)。

(論文)「Shrink Resistance of Pulse Corona Discharge / Keratinase Treated Wool Fabrics : Relation between Shrink Resistance and Strength」繊維学会誌(2012)。

指導教員

平林 由果

HIRABAYASHI Yuka

指定受験科目

被服環境学

研究指導内容 被服生理学、生活健康学

被服は最も身近な環境であり、人の健康に直接影響を及ぼす。ヒトの生理反応(体温調節反応、心拍変動、脳波など)を分析することで、環境を評価し、個々の身体特性に配慮しつつ、高齢者や障がい者も含めたあらゆる人にとって快適で健康な生活環境のあり方を追究する。

■研究経歴/奈良女子大学大学院家政学研究科修士課程被服学専攻修了。愛知医科大学医学部助手。医学博士。

■所属学会/日本家政学会、日本繊維製品消費科学会、日本衣服学会、日本生理人類学会、日本人間工学会。

■研究業績/(論文)「高齢者とおしゃれ」日本衣服学会誌、2020。

(論文)「若年女性の香りに対する意識と実態」金城学院大学消費生活科学研究科紀要、2019。

(論文)「においの快・不快が生理反応に及ぼす影響」金城学院大学消費生活科学研究科紀要、2018。

(論文)「オストメイトの衣生活に関するアンケート調査および衣服提案」日本衣服学会誌、2017。

(論文)「おしゃれが心身の高揚効果に及ぼす影響 -唾液中のストレスホルモン分析による検討-」繊維製品消費科学、2012。

(著書)「アパレルと健康」日本家政学会被服衛生学部会編 井上書院、2012。『被服学事典』(共著)朝倉書店、2016。

指導教員

加藤 悠介

KATO Yusuke

指定受験科目

住環境学

研究指導内容 住居学、福祉環境学

生活基盤としての住居の意味を人間行動と環境との関係性に着目した環境行動論的視点から研究する。生活様式が多様化する現代社会において、ライフサイクルからみた家族の交流空間としての意味や変遷、子どもの自立や高齢者の介護を支える福祉空間としての役割について考察する。

■研究経歴/大阪府立大学大学院生活科学研究科後期博士課程中退。博士(学術)。

■所属学会/日本建築学会、人間・環境学会、日本認知症ケア学会。

■研究業績/(著書)「福祉転用における建築・地域のリノベーション 成功事例で読みとく企画・設計・運営」学芸出版社、2018。

(論文)「認知症のための環境づくりとアクションリサーチ 実践と研究をつなげる手法」日本認知症ケア学会誌、2018。

(著書)「発想し想像する建築設計製図」理工図書、2017。

(著書)「利用者本位の建築デザイン 事例でわかる住宅・地域施設・病院・学校」彰国社、2017。

(論文)「イギリスにおける既存ストック活用事例とその特徴」日本建築学会地域施設計画研究、2017。

指導教員

朴 相俊

PARK SangJun

指定受験科目

住環境学

研究指導内容 建築構造・材料学

建築物とその外部環境とを構成する素材は多種多様であり、材料として極めて重要でありながらその特性を理解するには多くの努力が必要である。研究では、環境配慮型の新材料提案を目標とする。また、新材料開発では材料の組織や成分など物理的な基本物性を明らかにする。

■研究経歴/名古屋大学大学院工学研究科後期博士課程修了。博士(工学)。

■所属学会/日本建築学会、日本コンクリート工学会。

■研究業績/(論文)「Estimation of Fire Damage in High-Strength Mortar Mixed Polypropylene Fibers by Ultrasonic Tomography」Fire Science and Technology, 2007. (共著)。

(論文)「小径ドリル型削孔試験機を用いたコンクリートの圧縮強度推定」日本コンクリート工学会年次論文集、2017. (共著)。

(論文)「誘発日地によるひび割れ発生状況の変化に関する解析的研究」日本コンクリート工学会年次論文集、2018. (共著)。

消費者科学専攻 人間生活学研究科前期課程共通科目 授業科目の内容

人間生活学研究法Ⅰ

まず、測定の基本を復習しながら、さまざまな要因(独立変数)の効果は平均値から推定でき、分散を分解することで各要因の関与の程度が推定できることを理解する。さらに、単回帰を復習する。以上のことを基礎に、多変量解析の導入としての重回帰分析と主成分分析を学ぶ。次に、簡単な共分散構造分析を学び、因子分析を共分散構造分析の文脈から理解する。

なお、講義内容については受講生の統計の知識に応じて変更することがある。

人間生活学研究法Ⅱ

本授業では、コンピュータの基礎機能や仕組みを知り、パソコンの基本操作、ワープロ機能、画像処理、情報倫理、情報検索・発信、表計算、プレゼンテーションと一通りの学習を行う。大学においてコンピュータを十分に活用していこうと考える学生は、履修しておくのが望ましい。

消費者科学専攻 授業科目の内容

消費生活特論Ⅰ

消費に関連した時事問題について幅広い知識を深める。消費生活相談員資格試験、消費生活アドバイザー資格試験等の受験を目標に、過去問題の研究とともに、小論文作成の基礎能力を養成する。

消費生活特論Ⅱ

現代の家族が直面する課題に気づき、消費者教育が必要とされてきた社会・経済的背景をふまえ、消費生活の在り方や本質を理解し、課題の解決に向けて理解を深める。さらに、課題図書を設定し、文献を読み深めていく。

消費生活特論Ⅲ

最近の消費者問題・消費者運動・消費者政策に関する資料・論文を分析し、それに対する各自の考えをまとめ、論述する。以上のような分野であれば、修士論文執筆の際に役立つような内容に調整することが可能である。

消費生活特論Ⅳ

食の安全・安心を確保するための手法としてのクロマトグラフィーの有用性を学んだ後、クロマトグラフィーの原理および平板、ガス、液体、向流の各クロマトグラフィーについて詳細に検討を加える。さらに、質量分析計との結合や試料から目的化合物の精製法についても学ぶ。

消費生活特論Ⅴ

ファイナンシャル・プランナー資格取得に必要な6つの学習分野について具体的事例を交えながら消費・生活経済学とのかかわりをもって解説する。その後、各自が興味を持った分野に関する文献を検索・講読し、レポートを作成する。

消費生活特論Ⅵ

社会における複雑な問題を科学的に分析し、最適な意志決定を行う科学的・数理的方法を学習する。オペレーションズ・リサーチ(Operations Research[OR])は、第二次世界大戦中に開発された、データを調査分析して作戦を立案する分析方法)のいろいろな手法により、社会の中で出会う様々な問題を数理的なモデルにモデル化して解決する。

消費生活特論Ⅶ

実践的総合科学である家政学の特徴をふまえた生活経営学の理論と研究方法を学び、現代の生活問題を生活経営学の視点から考究する。また、生活経営学領域の学術論文の書き方について学ぶ。

消費生活特論Ⅷ

家庭科教育で消費生活の内容がどのように教えられてきたかを歴史的に捉える。また、他の国の家庭科教育についても探究する。教育方法等については課題図書を設定し、文献を読み深めていく。これらの分析により、家庭科教育における消費生活に関する教育の将来を展望する。

消費生活特論Ⅸ

ヒトも地球生態系の構成員である以上、健全な地球環境が存在しない限り、健全な生活はできない。この講義では、ヒトと環境との共生という視点から、農業活動や身近な環境の保全活動について考察する。

消費生活特論Ⅹ

国内外の消費者教育に関する代表的な文献を収集、講読し、消費者教育の本質理念と内容について理解する。次いで、「高度情報社会」、「持続可能な消費」をキーワードとした消費生活の課題を調べ、現代社会における消費者としての能力と必要とされる消費者教育の内容について検討する。

消費生活特論Ⅺ

代表的な疾患の症例をもとに、その疾患についての理解や治療法や療養上の注意点などを調査検討し理解を深め、患者へのより良い情報提供や治療について調査検討する。

消費生活特論Ⅻ

化合物を医薬品として使用するため、しかも、使いやすくなるための研究や化合物の物性の評価を行い、考究する。

消費生活特論Ⅼ

天然の医薬品である生薬・漢方を消費者に届ける立場として、その品質管理の基本である生薬鑑別、確認試験、成分定量について背景や原理を学び、より簡便で汎用となるための改善について考察する。

消費生活特論Ⅾ

薬物の体内レベルは薬効発現に関わる重要な因子であり、医薬品の安全で有効な使用において重要な役割を果たしている。薬学の専門の立場から消費生活について考究する。

消費生活特論ⅩⅤ

生活習慣病の予防・治療は個人の生活習慣・病態に合わせたオーダーメイド医療を実践する必要がある。また、その薬物治療は長期継続の為、安全に有効にさらに経済的負担も考慮されることが必須である。個人の生活の中での生活習慣病予防法・治療法について掘り下げ、検討していく。

消費生活特論ⅩⅥ

人々の消費生活を取り巻く種々の事象、消費財について基礎薬学的視点から俯瞰することによって、より科学的に事象・消費財について理解・考察する知識・技能を蓄える。そのことによって、身の回りのものをより賢く利用する、あるいは新しいもの・システムを構築する能力を養い、人々の生活を高める人材となるきっかけをつかむことを目的とする。

消費生活特論研究演習Ⅰ (外書講読を含む)

消費生活に関する英語文献を選定し、それを講読することにより、研究テーマを見つけ、研究方法の確定、論文作成の技法などを学ぶ。

消費生活特論研究演習Ⅱ (外書講読を含む)

消費者教育を中心に生活経営学領域における人間の発達と発達段階ごとの影響要因、特に家族の影響について考察する。中心となるテーマは、「子どもの消費者社会化」である。また、研究の理論的根拠を家政学と消費者科学におき、これらの学問のパラダイムについて考究する。

消費生活特論研究演習Ⅲ (外書講読を含む)

消費生活に関する英語文献を選定し、それを講読することにより、研究テーマを見つけ、研究方法の確定、論文作成の技法などを学ぶ。

消費生活特論研究演習Ⅳ (外書講読を含む)

食品薬学・機能性食品開発の基礎研究、食品・医薬品の分析などに関係する国内外の文献を講読し、研究計画、実験方法、実験結果のまとめ方、論文の書き方を修得する。

生活の質特論Ⅰ

夏涼しく、冬温かく、私たちが快適な衣生活を送るために、高性能繊維の開発が日夜行われている。また、医療、建築、農業、水産、通信、そして宇宙産業に至るまで、様々な繊維によって支えられている。そのような繊維の特性を概説するとともに、これからの社会が求める繊維とは何か、「2030年繊維技術ロードマップ(経産省)」も踏まえながら考える。

生活の質特論Ⅱ

繊維アパレル産業は大量の水、薬剤、エネルギーを消費し、環境への負荷が大きい。そのため、持続可能な衣生活の提案と実践が強く求められている。環境への負荷が少ないエコフレンドリーな繊維染色加工とは何か、生体由来物質である酵素や天然由来物質の有効活用、無水染色などを概説する。

生活の質特論Ⅲ

ヒトと動物の自律性および行動性体温調節反応について解説し、その調節のメカニズムについて論じる。さまざまな生活環境の変化に対する対応の仕方を学び、衣生活・住生活との関係、さらには環境への適応能力とそのメカニズムについても解説する。

生活の質特論Ⅳ

多様性を尊重する時代となり、高齢者や障がい者への対応は早急に取り組まなければならない課題が多い。本講義では、高齢者や障がい者の立場から生活環境を評価し、より多くの人に使いやすいユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインを考える。

生活の質特論Ⅴ

20世紀前半から現在に至る日本の住宅供給について、国や自治体による政策や制度、所有形態の変化、住宅産業、様々な種類の住宅の特性等を、諸外国との比較検討や資料を用いて理解し、現状の問題とこれからの課題について考察する。

生活の質特論Ⅵ

この授業ではテキストを用いて、「建築構成の手法」について学ぶ。建築の構成とは、「諸要素の形や配列を決めつつ、それらを三次元の中で組み合わせることで全体をつくり上げること」である。そして、建築構成の手法とは、「ある構想の下に組み合わせの規則や秩序を設定し、それを具体的な構成の中に適用する」やり方である。このテキストでは、比例、幾何学、対称、分節、深層と表層、層構成といった6つの建築構成概念に整理され、概説されている。授業では、テキストにしたがって、それらの建築構成概念にもとづき、建築構成の手法について検討していく。

生活の質特論Ⅶ

住生活の質の向上のためには、住まいや建築に対して、人間の心理・行動、社会、地域など様々な視点から捉える必要がある。この授業では、それらの視点について具体例を交えて説明し、住生活を支える仕組みを講義する。

生活の質特論Ⅷ

新材料及び新工法の開発を目指して、建築材料の力学的特性及び耐久性などの定量的な性能評価について既往の研究から学ぶ。また、SDGsの取り組みとして、エネルギー消費量及びCO₂排出量を抑える環境配慮型材料の開発について考えていく。

生活の質特論Ⅸ

環境や食品中に含まれる化学物質によるヒトへの健康影響について理解を深め、科学的根拠をもとにした化学物質の安全性のあり方について学び、考究する。

生活の質特論Ⅹ

栄養学や医学の文献を通じて、生活の質の向上と栄養学との関連を探る。

生活の質特論Ⅺ

人間は「食べる」ことによって生命や健康を維持しているが、その食生活が逆に「メタボリックシンドローム」の原因となることもある。食品と加工、調理について考究する。

生活の質特論Ⅻ

女性のライフサイクルである、思春期、成熟期、妊娠、出産、更年期、高齢期に最適な栄養教育法について学ぶ。また科学的評価の手法についても学習する。

生活の質特論Ⅼ

ヒトが健やかに心豊かに生きていくためには、人生のどのライフステージにおいても継続的な食の供給が必要である。生活の質(QOL)向上のための食事設計について、調理学や給食経営管理の理論を基に、事例や先行研究を踏まえて学ぶ。

生活の質特論Ⅽ

高齢化社会における重要な問題として健康の問題がある。特に生活習慣病(ガン・動脈硬化・高血圧・糖尿病など)の防御が重要である。研究成果を中心に、科学的知見について、加齢栄養学の視点から講義を行う。またヒトが健康を維持するための栄養学的なアプローチについて考察する。

生活の質特論Ⅾ

超高齢化社会の到来、国民生活の変化と多様化に伴う生活習慣病の増加などにより食生活の質が問われている時代である。国民の健康維持・増進及び疾病予防や生活の質(QOL)の向上のために、食環境と食生活のあり方について学ぶ。

生活の質特論Ⅿ

住まいにおける生活の質は、使いやすさで決まるものではない。使いづらくても、文化的価値、あるいは歴史的価値のある建物に住むことで、大きな満足を得ている人たちも数は少ないが存在する。この科目では、空間の概念や家族の概念の拡張を目指し、革新的な試みをしてきた建築家たちの住宅作品の分析を通して、生活の質をとらえる多角的な視点を獲得する。

生活の質特論研究演習Ⅰ(外書講読を含む)

人間の感性や生理機能に適合した高品質なテキスタイル、繊維染色加工に関連する内外の研究文献を講読する。現在までに明らかになっている知見および研究方法を学ぶ。

生活の質特論研究演習Ⅱ(外書講読を含む)

建築構造及び建築材料に関連する研究テーマを設定し、これに関しての既往の研究を分析・考察する。最終的な成果のみでなく、課題の選定やそれに関するプレゼン、分析、そしてそれをまとめていく。それによって、建築工学の枠組みを超えた自らの専門領域を開拓していく力を養うこと目的とする。

生活の質特論研究演習Ⅲ(外書講読を含む)

健全な栄養状態の保持増進、望ましい食習慣の形成、伝統的食文化の継承・発展と新しい食文化の形成などを系統的・総合的に分析し、これからの食生活のあり方を考察する。そのために、食生活の諸問題についての国内外の文献を講読し、討議により理解を深め考察する。さらに研究論文のまとめかたについても学び、具体的な研究計画の作成を試みる。

生活の質特論研究演習Ⅳ(外書講読を含む)

生活の質によって、健康状態は変化する。生命科学や健康維持に関する国内外の文献を講読するとともに、研究の手法、論文の書き方などについて学び、生活の質の向上の概念を、人体の構造と機能の観点から考究する。実地調査を踏まえて課題解決を検討する。

特別研究

修士論文の指導を行う。担当する指導教員名および研究指導内容については、「研究指導内容及び指定受験科目一覧」を参照してください。